



いきいき

小富士っ子



R5学校便り No. 9

令和5.7.10

四国中央市立
小富士小学校

七夕伝説

梅雨明けの待ち遠しい季節となりました。今年は雨の量が十分でダムの貯水率も高く、水不足の心配はないようです。ただ、なんだか雨の日が少ないように思っていたら、やはり今年は早梅雨（ひでりづゆ）になる予報です。早梅雨とは、梅雨の時期に雨がほとんど降らないことを指す言葉で、私たちに馴染みの深い言葉で言えば空梅雨（からつゆ）のことです。早梅雨の語源を調べてみると、梅雨の真ただ中で晴れた7月7日、その一日を早梅雨と呼んだことが由来のようです。7月7日といえば七夕ですが、今年は残念ながら天候が悪く星空を見ることはできませんでした。ご存じのとおり7月7日は、晴れば彦星と織姫が一年に一度会える日です。雨が降れば、天の川が増水して渡れず、二人の再会は見送られることとなります。一年に一度のチャンスなのに会えないとは切な過ぎます。そこで、雨は会うことができた二人のうれし涙であると言っていたり、雨の少ない中歴（新暦1か月後）や旧暦の7月7日に七夕の行事をしていたりしています。有名な仙台七夕まつりは、8月6、7、8日にしています。しかし、そもそも彦星と織姫は結婚しているのに、なぜ離れて暮らしているのでしょうか。それは、もともと働き者だった二人が毎日仲むつまじく過ごし、なかなか働かないことに、天帝が怒り二人を引き離れたからです。ところが、あまりに悲しむ二人を見かねて一年に一度だけ七夕の夜に会うことを許し、その代わりにしっかり仕事に励むよう言い渡しました。会いたいと願う二人の思いがかなったことから、七夕は願いごとがかなう日となりました。これが七夕伝説です。一年間、一生懸命働いたご褒美に一日会えるということですが、どうやら彦星と織姫には働き方改革が



地区別懇談会、お世話になりました。

必要なようです。先日の地区別懇談会の挨拶の中でも話させていただきましたが、保護者の皆様も教職員も働き方改革が必要ですね。たまには、ゆっくりと星の伝説に思いを巡らしながら心を癒やすことも良いのではないのでしょうか。雨の日の少ない今年は空梅雨と言わずに、ロマンチックに早梅雨と言ってみませんか。

行事なども実施ししながら、本来の「学校の日常」を取り戻しつつある1学期です。皆様のご理解のおかげで、例年より心に少しゆとりを持って子どもたちと過ごす時間の多い7月を送っています。1学期も残り2週間、子どもたちとの時間を大切に過ごしたいと思います。保護者の皆様も子どもたちの見守りをよろしくお願いします。夏休みも子どもたちのことをよろしくお願いします。夏休みに2回七夕があります。8月7日（中歴7月7日）と8月22日（旧暦7月7日）です。七夕に向けて、改めてお子様と一緒に願い事をするか、何か目標を立ててみてはいかがでしょうか。